

### ③ 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業

#### ■ 事業概要

発注者	国立大学法人筑波大学			
事業目的	従来環境を刷新・補強し、高度先端医療、先進的医学教育、そして臨床医学の力となるべき研究を確実に推進・持続発展させるために産・官・学の英知を結集し、地域とも密接な連携の基に我が国のモデルとなる医療提供体制を構築する。			
事業内容	病院施設、病院関連施設を整備し、病院運営支援業務、維持管理運営業務等を遂行する。			
事業期間	約24年(施設整備期間を含む。)			
事業形態	BTO方式(新設施設)、RO方式(既存施設)、サービス購入型			
事業費用	113,398,336,991円(落札金額)			
タイプ	タイプ3			
スケジュール	実施方針公表	2007年2月23日	落札者決定	2008年8月29日
	特定事業選定	2007年8月31日	契約締結	—
	入札公告	2007年9月3日	供用開始	—

### ③ 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業

#### ■ 特徴(環境配慮について)

- もともと国の機関であったことから、グリーン調達への配慮については、そのまま継承している。
- 医療機関でもあり、ごみの減量、不法投棄防止(特に医療廃棄物への配慮)等の安全安心への対応には配慮した。

#### ■ 地球温暖化防止のポイント

大学における省エネルギーへの取組みは、校内にエネルギー管理組織・体制を整え、大学全体における省エネルギー機器・システムを採用し、使用者各自の省エネ意識及び行動を啓発している。

また、本事業では、民間事業者の業務範囲にエネルギーマネジメント業務が明確に提示されている。エネルギーマネジメント業務とは、消費エネルギーを把握することで、より効率的なエネルギー利用の方法を検討・提案するタイプの業務であり、病院施設の維持管理・運営において、省エネの実現と地球温暖化対策に貢献することが期待されるものである。

## ③ 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業

### ■ 課題

#### ■ 光熱水費等エネルギー管理に対するインセンティブ付け

本事業は、新施設の建設、維持管理・運営をBTO方式で実施するとともに、既存施設の改修、その後の維持管理・運営についてはRO方式を採用するというハイブリッド型の事業方式が採用されている。いずれの事業方式においても光熱水費の省エネ達成などの保証は、PFI事業項目として含まれていない。また、光熱水費については、事業者及び病院がそれぞれ使用料を負担することとなっている。

入札時において、事業者は「環境負荷低減をおこなうための具体的取組・工夫」や「継続的業務改善維持管理コスト縮減」を評価項目として提案することを求められているにも関わらず、これらの項目は実際のPFI事業におけるサービス対価の算定に関係のないものとなっている。民間事業者のやる気や創意工夫を引き出していくためには、環境に配慮した維持管理・運営を遂行することを入札時だけでなく、継続的に実施していくためにも、サービス対価の評価項目として光熱水費等エネルギー管理に対するインセンティブ付けがなされることが望ましい。